

平成 28 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 28 年 4 月～平成 29 年 3 月

1. 学校概要

学校名 岡山県立和気閑谷高等学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☒ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒709-0422
和気郡和気町尺所 1 5

E-mail wakesizu@pref.okayama.jp

Website http://www.wakesizu.okayama-c.ed.jp/

児童生徒数 男子 150 名 女子 228 名 合計 378 名
 児童・生徒の年齢 15 歳～18 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☐ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☐ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☒ そのほか（地域課題発見解決学習）

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

1. 生徒会主催ボランティア活動

次の①～④を生徒会が主催して運営している。

①閑谷学校ボランティアガイド

本校は、1670年に備前藩主池田光政公が設立した日本最古の庶民の学校「閑谷学校」を源流としている。閑谷学校の建築意匠や歴史的遺品等について研究し、その成果を観光ガイドという形で発表している。主に、土・日・祝日を中心に行っている。

②本荘小学校学童保育

月～金の曜日ごとのグループに分かれて活動している。各生徒の活動は週1回なので、他の活動（部活動や委員会活動等）と両立することが可能。

③エコキャップ運動

小学校や町内各所に依頼したり、地域の方が来校くださったりしている。（これまでの持込先が取扱を中止したため2016年10月から休止中。）

④閑谷学校グリーンズ

閑谷学校主催の野外活動を支援している。毎回の行事では本校の卒業生も活動している。

2. 地域貢献活動

本校の活動が地域に認知され、地域との連携も広がっている。今年度、地域と連携した主な活動は、次のとおり。

4/22	地域清掃（3年生）	10/ 8	和気町ものづくりフェスタ
4/29	こいこい祭り、藤まつり	10/22	萩菜
5/15	ヤクルト工場祭り	10/29	平病院交流会
7/11	金剛川清掃	11/23	和気町ふるさと祭り
7/17	わんぱく広場清掃	12/10	和気駅前イルミネーション点灯式
7/23	和気町子ども塾キャンプ	12/12	地域清掃（2年生）
7/24	和文字焼き	1/13	地域清掃（1年生）
7/26	水辺の楽校	1/28	和気町子ども塾閉塾式
7/29	閑谷学校イベント	通年	ショーウィンドウディスプレイ

また、小中学校との連携で小中学生の学習活動の支援として次の2つを行った。

(1) 小中学校放課後学習支援

町教委が町内の小中学校を対象に行っている放課後学習支援に、本校生徒が地域ボランティアの方と一緒に参加している。県内の教育関連企業と連携した教材を使って、算数・数学の基礎学力向上の支援に取り組んでいる。

(2) 理科実験講座

小中学生を対象に理科の実験講座を開催した。4種類の実験にそれぞれ生徒が補助員として配置し、小中学生をサポートした。

3. 国際理解学習

(1) こくさいフォーラム in Wake

小中高生合同で、あるいは地域の方も交え定期的にフォーラムを開催した。各

回、20～30名（第6回は地域の方を含め50名）が参加しESDの観点から学習を展開した。

- ①第1回：5/29 留学生と交流～和気町フォトラリー～
- ②第2回：6/12 SDGsをゲームで体験し2030年の世界を考える
- ③第3回：7/17 世界の教育の現状を考える
- ④第4回：9/25 コトバが無いとどうなる？
- ⑤第5回：10/23 留学生と交流～世界の食文化～
- ⑥第6回：11/26 2030年の理想の和気町を描こう

(2) English Camp

「小中学生に最高の思い出を！」を目標に、小中学生が英語に親しめるようなプログラムを高校生が開発・実践している。和気町教育委員会社会教育課と共催で、県内留学生とALTを講師に招き実施している。なお、キャンプの様子は<http://bit.ly/2gR6e6k> で公開している。

- ①夏キャンプ：8/27～28 参加者70名 岡山県青少年教育センター閑谷学校
- ②冬キャンプ：12/27～28 参加者53名 岡山県青少年教育センター閑谷学校

4. 国際交流

論語の「仁」「恕」の精神が現地の価値観とどのような関係性があるかを交流のテーマの一つとし、訪問団の選考は、[1次]全校生徒対象の論語に関する作文審査、[2次]作文審査上位者対象の面接審査、で行った。

(1) 韓国 ASPnet 校訪問交流 (9/29～10/1)

韓国沃川(Okcheon)高校を生徒4名、引率3名で訪問した。校長室でのあいさつの後、日本語クラスの授業に参加した。当日は自己紹介についての回で、グループに加わり名刺交換をしながら自己紹介の練習に加わった。また、ユネスコクラブの生徒と論語や学校生活についての意見交換を行った。さらに、現地の英語教育施設見学や古典音楽体験等を通して異文化に触れることができた。

(2) 中国嘉定区サマーキャンプ (8/1～9)

和気町が友好都市協定を結ぶ嘉定区が主催し、9か国の高校生が集い国際感覚を養い相互理解と友好を深めるもので、和気町代表として本校から2名が参加した。孔子廟や博物館見学、中国伝統文化体験講習、ホスト高校生自宅での家庭体験などを通して、異文化に触れ交流を深めた。

5. 総合的な学習の時間での探究学習

学んだことを地域で活用し実践から学ぶことで自己成長を図るサイクルの中で、3年間4単位のプログラムを組んでいる。地域おこし協力隊が和気町支援職員として本校に常駐し、探究学習の企画立案や地域とのコーディネートを担当している。

1年生…自分たちが普段関わっていること、モノが、学問と結びついていることに気づき、探究学習の基礎を身に付ける。

探究基礎Ⅰ：発見！和気閑谷高校の新事実

探究基礎Ⅱ：提案！和気の困りごと解決案

2年生…身近な問題は実は世界につながっていることを、「いのち、こころ、くらし、ぶんか、しごと」の5分野から探究する。分野ごとに命題をおき、その解決策や提案内容を自分たちで考え探究する。しごと分野はESDの観点での探求型インターンシップを行う。

3年生…一人ひとりが進路を実現し、これまで学んできたことがこれからの世

の中でどのように実現できるかを、役場・学校・病院・デパートの 4 グループで和気町をテーマに協働して探究し、「和気町を理想のまちに」を提案する。

6. 評価研究

教育現場における ESD の学習評価実践として、参加型評価 MSC (Most Significant Change) を研究・試行した。また、前期のこくさいフォーラムの実際から国際理解に関するポートフォリオ案を作成し、後期のフォーラムで試行した。

7. その他

(1) 生徒による発表等

- 7/13 本荘小学校英語出前授業（英語研究部）
- 8/20 カナダ・ハナ町からの留学生と交流
- 11/12 岡山県ユネスコスクール高等学校ネットワーク実践交流会
- 11/13 岡山の歴史・文化研究フォーラム
- 12/17～18 福井大学高大連携探究プロジェクト
- 12/23 ESD Café インターキッズ国際塾 2016
- 1/31 和気中学校論語出前授業（探究学習「論語」チーム）

(2) 研修会等への参加

- 11/19～20 ユネスコスクールネットワーク強化会議（ACCU）
- 12/ 3 ユネスコスクール全国大会（金沢大学）
- 12/10 広島県 ESD 研修会（広島大学）
- 1/22 ESD 岡山フォーラム 2017（岡山大学）

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- ☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- ☒ 時間外活動の時間を使用
- ☐ ユネスコクラブの活動として実施
- ☐ その他（

）

「怒」の精神を備えたグローバル人材育成 岡山県立和気閑谷高等学校

～ 地域連携によるESDの取り組み ～

1 生徒会主催ボランティア活動

① 閑谷学校ガイド



③ エコキャップ



2008年スタートの閑谷学校ボランティアガイドをはじめとして、4つのボランティア活動を生徒会が運営しています。ガイドは休日、学童保育は担当曜日を決め平日に行うことで、他の活動と両立しながら参加できます。エコキャップは近隣の小学校や役場にも回収箱を設置して協力いただいています。グリーンズは子どもたちの活動をサポートするお兄さんお姉さんとして親しまれています。

② 学童保育



④ 閑谷グリーンズ



2 論語の日常化

① 全校集会や毎朝の朗読 ② 論語手帳『怒』



論語を生き方の鑑として活用しています。独自のスケジュール帳である論語手帳『怒』の週ごとのページに掲げられている『今週の論語』を毎朝SHRで朗読することから一日が始まります。『今週の論語』は正門脇の論語掲示板に掲示し登下校時にも接することができるようにしています。

③ 論語百章

④ 論語掲示板

学校紹介 岡山県立和気閑谷高等学校 県東部の和気町にあり、普通科(1学年2クラス)とキャリア探求科(同1クラス)の2学科からなります。寛文10(1670)年に備前藩主池田光政公が設立した日本最古の庶民の学校「閑谷学校」を源流としています。閑谷学校の職業(せきさい):孔子を祀る儀式)では本校の教職員が祭務を務めたり、全校集会では体育館でオリジナルテキスト『論語百章』を用いて論語朗読を行ったり、論語手帳『怒』の今週の論語を毎朝朗読したりなど、閑谷学校の学びの精神を受け継いでいます。

ESDに関する歴史

- ・2016年 第7回持続発展教育(ESD)大賞 文部科学大臣賞 受賞
- ・2015年 ESD岡山アワード2015 岡山地域賞 受賞
- ・2014年 文部科学省 ユネスコスクールESD優良実践事例に認定
- ・2013年 第4回持続発展教育(ESD)大賞 審査員特別賞 受賞
- ・2012年 UNESCOのHPでESDの成功事例として紹介
- ・2011年 ASPnet(ユネスコスクール)に認定

3 町と県立高校の協働による魅力化 ～持続可能な地域の形成をめざして～



少子高齢化・人口減少
(現在15,000人→20年後には10,000人を割る)
→就業人口減→税収・行政サービス減
→伝統文化が途絶える
→資源が活用されない
→農作放棄地の増加 etc.



課題解決型探究学習で
学力・意欲の向上を！
生徒数減少→クラス数減少
→教員減/高校としての機能の維持は？
高校の衰退→子ども連れ家族の流出→町の衰退

地域おこし隊が
和気町支援職員として
高校に常駐

町と高校の協働による
魅力化事業

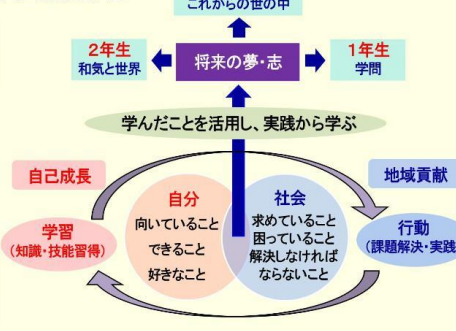
高校を核とした地域の
活性化と地域の
担い手育成

4 地域課題発見解決型探究学習

1年:自分たちが普段関わっていること、モノが、学問と結びついていることに気づき、探究学習の基礎を身に付けます。

2年:身近な問題は実は世界につながっていることを、「いのち、こころ、くら、ぶんか、しごと」の5分野から探究します。

3年:一人ひとりが道路を実現し、これまで学んできたことがこれからの世の中でのどのように実現できるかを、和気町をテーマに協働して探究します。



(例)JR和気駅前銀行跡地の活用



高校生と商工会や商店会との協議

書道部パフォーマンス

吹奏楽部演奏

生徒による論語学習会

5 国際理解学習

① 国際交流



9/29～10/1 韓国オクチョン高校訪問・・・論語をテーマに交流。
8/1～9 中国嘉定区サマーキャンプ参加
※他に中国上海市嘉定区第一中学、三東省曲阜市第一中学と友好交流協定を結んでいます。

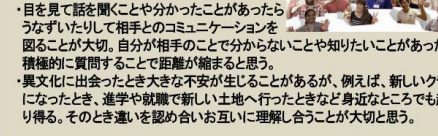
② こくさいフォーラム in Wake・・・小中学生や地域の方とESDを学ぶ。



- 第1回(5/29)「留学生と交流～和気町フォトラリー～」
- 第2回(6/12)「SDGsをゲームで体験し2030年の世界を考えよう」
- 第3回(7/17)「世界の教育の現状を考えよう」
- 第4回(9/25)「コトバが無いとどうなるの？」
- 第5回(10/23)「留学生と交流～世界の食文化を考えよう～」
- 第6回(11/26)「2030年の理想の和気町を描こう」

③ English Camp・・・小中学生が英語に親しめるようなプログラムを高校生が実践。和気町社会教育課と共催。

夏(8/27～28)閑谷学校 70名参加
冬(12/27～28)閑谷学校 52名参加



生徒の感想から
・目を見て話を聞くことや分かったことがあったらうなずいたりして相手のコミュニケーションを図ることが大切。自分が相手のことと分からないことや知りたいことがあったら積極的に質問することで距離が縮まると思う。
・異文化に出会ったとき大きな不安が生じることがあるが、例えば、新しいクラスになったとき、進学や就職で新しい土地へ行ったときなど身近なところでも起こり得る。そのとき違いを認め合いお互いに理解し合うことが大切だと思う。

インド人留学生と交流

和気閑谷高がイベント

児童生徒ら町内案内



和気町内を巡り、外国人留学生（左）に英語で説明する参加者

和気閑谷高校（和気町尺所）は5月29日、

催した。同高や地元の小中学校からの参加者

外国人との交流を図るイベント「こくさいフオーラム in Wak」を巡るなどし、コミュ

校生徒や地元の小中学

生、町の地域おこし協力隊員ら計31人が同町福富の交流施設・エンターワケに集合。3班に分かれ、留学生からインドについて「映画製作が盛んな国」「カバディなどのスポーツに親しんでいる」などと英語で説明を受けた。引き続き、各班ごとに町内を散策。高校生らが町について留学生に英語で説明したほか、タブレット端末で町並みを撮影した。

エンターワケに戻った参加者は、巡った場所を記した地図を模造紙を使って作成。地図に散策で得た知識を英

語や日本語で記入したり、撮影した写真を貼るなどして町の魅力を計3回開く予定。掘り起こした。

参加した同高2年生

（岸俊行）

田正貴さん（16）は「インドの文化は分かったが、自分は和気について知らないことが多いことに気付き、地元への興味も湧いた」と話していた。

イベントは地球規模で物事を考え、地域で行動できる「グローバル」人材の育成を狙いに企画した。7月まで

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。

一瞬で収縮 びっくり

和気閑谷高で小中生が理科実験

キーホルダー作りに挑戦



4グループに分かれ、同校教諭や生徒の指導を受けながら、プラスチック板を材料にしたキーホルダー製作、薬品を使った鏡作りなどに挑戦した。

た本庄小3年行本葉璃愛さん(8)は「加熱すると、すぐに小さくなって面白かった。上手にできたので、筆箱に付ける」と話していた。

(三木良一)

和気閑谷高生の指導を受けながら、理科実験を体験する子どもたち

キーホルダー製作では、薄いプラスチック板(8センチ四方)に花や動物、漫画のキャラクターなどを描いた後、オーブントースターで加熱。一瞬で4分の1程度に収縮して塊になると、子どもたちは驚きの表情を見せていた。最後にあらかじめ空けていた穴に、ひもを通して仕上げた。

キーホルダーを作った

(C) 山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。

和気閑谷高校(和気町尺所)は20日、小中学生が理科実験を体験する講座「和気高de理科チャレンジ」を初めて同校で開いた。同町内の小学1年生、中学3年生と保護者計約110人が参加。

和気閑谷高が受賞

和気閑谷高校（和気町尺所）が、ESD（持続可能な開発のための教育）の取り組みが優れた学校を奨励する「第7回ESD大賞」（NPO法人日本持続発展教育推進フォーラム主催）の最高賞に当たる文部科学大臣賞に選ばれた。学校を核に地域ぐるみで活動している点などが評価され、同高は「協力してくれた地域に感謝したい」としている。（平松隆）



同高はESDにつながるプログラムとして、2014年度に生徒が住民と連携して地域課題解決に取り組む総合学習「閑谷^{（和気）}學」をスタート。生徒が授業やボランティアを通じて、JR和気駅（同町福富）周辺の活性化や、『グローバル人材』の育成を狙いに企画したイベントで、外国人留学生と交流する和気閑谷高校の生徒ら5月

地域ぐるみの活動評価

地元小中学生に論語を教える出前授業などを実施している。

本年度は国際的な視点で物事を考え、地域で行動できる「グローバル人材」の育成をテーマに活動。岡山大学の外国人留学生や住民を招き、定期的にまちの未来を語り合ったり、1泊2日のイングリッシュキャンプを行うなどしてきた。

同大賞には全国の中学校、高校計43校から応募があり、同法人理事の教育関係者が審査。受賞7校を選び、このうち和気閑谷高が文科大臣賞に輝いた。同賞は、県内では14年の岡山市立京山中学校に続き2校目。

香山真一校長は「模範的な事例として評価され、励みになる。地域と連携した教育をさらに推進していきたい」と話している。

（C）山陽新聞社 無断複製・転載を禁じます。